第3回寝屋川市放課後子ども総合プラン運営委員会議事録

１　日時　平成30年11月16日(金)　午後２時から午後３時50分

２　場所　議会棟　４階第１委員会室

３　参加者

出席委員　（11名）

杉本委員長・屋敷委員・西田委員・桝井委員・辻本委員・葛城委員・吉岡委員

北西委員・川口委員・青木委員・川原委員

欠席委員　（４名）

世戸副委員長・川北委員・福田委員・濱委員

事務局　（５名）

田中課長・南畑係長・西田係長・山田支援員・高岡支援員

４　次第

評価について

組織運営について

その他

５　会議内容

委　員：行政から各実行委員会の関係者アンケート調査を実施しているか。

事務局：子ども達へのアンケートも含めて実施していない。

委　員：評価は自己評価を基本として提案していく事がいいのではないか。運営委員会が各実行委員会の評価項目を提案する事になるのか。また内容は24校、統一したものになるのか。

事務局：24校統一した評価項目を想定している。

委　員：基礎評価項目は24校統一。特徴的な評価項目として各実行委員会に個別の評価項目があってもよいのでは。自校の特徴を捉えて改善する事が望ましい。振り返り、物事を進めるべきである。

委　員：事業の目的・趣旨に対するの評価も必要ではないか。予算化や継続性を意図した項目、子ども側の項目は「楽しめたか」などが必要である。評価項目としても、去年・５年・10 年前と現年を比較して改善できるような設定をすべきでは。

事務局：具体的な評価項目の素案はできていない。自己評価したものに関しては行政がコメントを入れるなど支援していくこともできるのでは、と考える。

委　員：「評価のねらい」を運営委員会が示すべきである。

委　員：評価の前に実行委員会の組織力を強めるべきである。安全管理員の責任も非常に大きい。組織の永続性の観点からリスクマネジメントを考える時期でもある。

委　員：「評価」という次第であるが、情報を集める手段として「アンケート」を通じて意見を頂戴できればよいのでは。次にその情報を「共有」してボトムアップできる。

委　員：「保護者と子どもに何をしてほしいか」というアンケートを４月に実行委員会から行った。プログラムにより教室の広さや準備物で定員を設けなければならない場合がある。参加数が評価に繋がると定数以上の募集があるにも関わらず数字しか残らない。質より量的なアンケートの取り方では実行委員会のモチベーションを下げる可能性がある。不利にならない項目を設けてはどうか。

委　員：事業は上手く進んでいるが、少人数の実行委員に負担がかかっている学校があると伺った。行政の補助・助言を行わないと継続は難しいのでは。

委　員：青少年指導員や地域協働協議会など、地域の組織が協力している校区も一部ある。

事務局：放課後子供教室は地域に認識されてない部分がある。PTA 主体の実行委員会がある地区など、行政から地域の組織に協力依頼と周知を図っていく必要もある。

委　員：新旧の PTA 役員は学校によっては顔を合わせる機会がなく新年度を迎える場合がある。池田小学校では青少年指導員と新旧の PTA 役員の顔合わせがあり、引継ぎがスムーズである。

委　員： PTA 活動のみ残ってしまうとそもそも「何のための活動を目指していたのか」事業の目的が引き継がれないケースがある。地域の人が変わらないことは強みがある。形骸化しないために PTA の OB・OG がサポートして引き継いでいる学校は上手く循環している。

委　員：「交流会」を「研修会」にして参加していただくのはどうか。マネージメント研修会を行い地域の方をはじめ人材育成をする事で継続者の確保に繋がるのでは。

委　員：今後は家庭教育と放課後などと分け隔てなく、家庭と地域を繋ぐ家庭教育サポーター等も含め「小学校児童対策」を運営委員会で討論出来る場にしていきたい。